

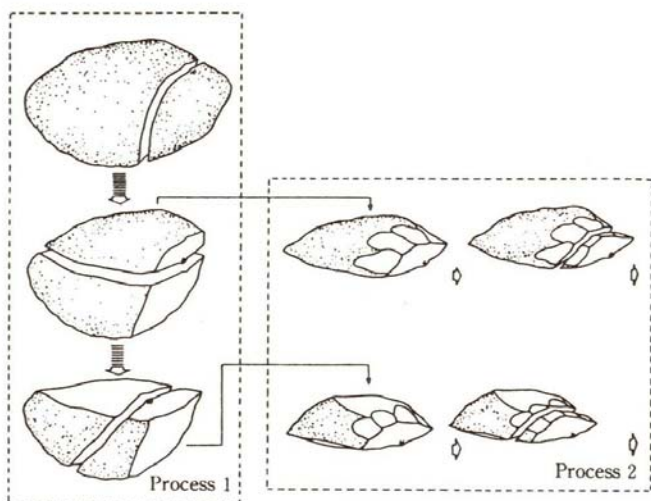
昭和六年（一九三二）に発見され、第二次世界大戦の際に消失した兵庫県明石人は原人の可能性も考えられている。その後発見された人類化石のうち、愛知県牛川人・栃木県葛生人などが旧人に属するといわれている。また静岡県三ヶ日人・浜北人・沖縄県港川人などは新人段階のものである。新人のうち大分県聖岳洞穴では、ナイフ形石器や細石刃とともに頭骨の一部が出土しており、約一万四〇〇〇年前のものとしてされている。

第二節 豊津の旧石器時代の遺跡

豊津町は、南部に複雑に入り組んだ幾つかの小丘陵が延びることから、旧石器時代には動物を狩猟したり、堅

果・果実・根菜類などの植物性食物を採集したりするには適した地理的環境にあったと想像される。

現在確認されている豊津町内の旧石器時代の遺跡には、徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡と長養池遺跡とがあるが、数点の石器が出土しているのみで、具体的な遺構は検出されていない。



第2図 瀬戸内技法と翼状剥片・国府型ナイフ

(松藤和人氏原図)

第1章 旧石器時代

徳永川ノ上遺跡

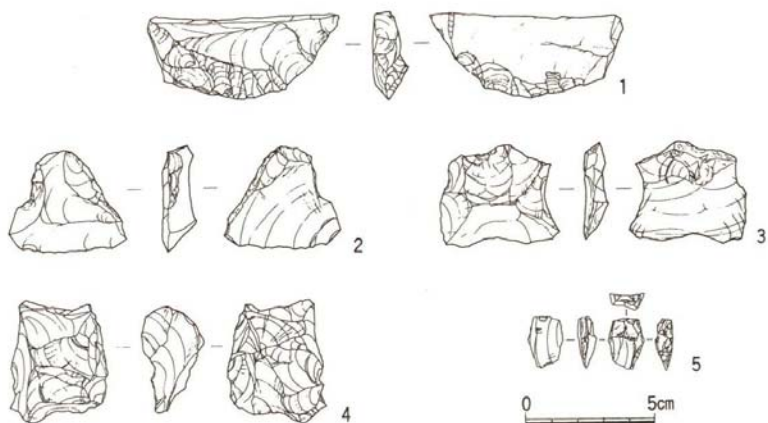
当遺跡は、一般国道一〇号椎田バイパス建設に伴う発掘調査で確認された遺跡である。旧石器時代から中世にまで及ぶ複合遺跡である。地理的には、祓川中流右岸の河岸段丘上に位置し、標高は二四〇メートル程度である。

旧石器時代に属する遺物としては、ナイフ形石器と細石刃がある。ナイフ形石器には安山岩製の優美な形態のものがあり、細石刃には黒曜石製のものがある。

鋤先遺跡

当遺跡は、徳永川ノ上遺跡の北方に連続する遺跡で、一〇号バイパス建設に伴う発掘調査された。祓川右岸の段丘直上に位置し、標高は二六〇〜二九〇メートル程度である。

旧石器時代の遺物としては、主に3区から姫島産黒曜石製の舟底形石核・フレイク、油質頁岩製の石核・フレイクなどが出土している(第3図1〜4)。1は舟底形石核で、長さ七・六センチ、幅三・二センチ、厚さ一・四センチである。4は長方形の平面形をなす石核



第3図 鋤先遺跡・長養池遺跡出土旧石器

(1〜4 鋤先遺跡、5 長養池遺跡)

で、長さ四・九^{センチ}メートル、幅三・九^{センチ}メートル、厚さ二・四^{センチ}メートルである。2・3はフレイクである。

長養池遺跡

当遺跡は、豊津丘陵が北方で幾つかに分かれる小支丘のうち、甲塚^{かまづか}から八景山に延びる支丘と国分から長養に延びる支丘の付け根付近に位置する。遺跡は長養池の西岸中央部に突き出た突出部の岸にあり、標高は約三三^{メートル}である。

遺物は表面採集によって発見されたナイフ形石器が一点のみである(第4図5)。この石器は黒曜石の縦長剥片を素材として、打面部と剝離末端部、一方の側縁部の三面に刃潰^{つよ}しを施す。刃部は剥片の鋭い縁辺を利用して、やや斜めに作りだす。大きさは長さ二・〇^{センチ}メートル、幅一・三^{センチ}メートルと小さく、厚さは〇・七^{センチ}メートルである。全体の形態は台形様石器に似ており、ナイフ形石器文化のなかでも終末期的様相を示すものである。

第三節 豊前地方の旧石器時代

北九州市域を含めて、京築地域・宇佐地域のいわゆる豊前地方では、現在までに三〇以上の旧石器時代の遺跡が発見されている(第4図参照)。これらの遺跡の多くは、洪積台地や丘陵上に位置する。発見されている石器はすべて旧石器時代後期に属し、ナイフ形石器や剥片尖頭器・台形石器・細石刃などである。

約二万〜一万二〇〇年前のこの時期には、瀬戸内海西部の周防灘は大部分が陸地であった。当地方は気候的に現在の北海道南部辺りに相当したと推定され、平野部では冷温帯落葉広葉樹林に、山間部では針葉樹